
爆笑！打ち首マンザイの番組収録後に斬首刑執行のコペルニクス日光帳
ネアンデルタール家元

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁く小説投稿サイトく」で掲載中の小説を「暁く小説投稿サイトく」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁く小説投稿サイトく」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

爆笑！打ち首マンザイの番組収録後に斬首刑執行のコペルニクス日
光帳

【作者名】

ネアンデルタール家元

【あらすじ】

篠田昭之が、酒気帯び運転で逮捕された事件について言及している。飲酒運転をしたことについて「本当に申し訳ないことをしてしまいました」とコメント。「また、裁判官の判断ミスだと思うけどね」と語った。

コペルニクス日光帳ダイジェスト

ラボルバピストン静脈

「爆笑！打ち首マンザイ」の最終覇者に有罪判決が下り、打首獄門にされた件に納得できません。SNSでは正論多数ですが、せっかあく生き残った人を番組終了後に打ち首するなんて理不尽すぎると思いませんか。せっかく生きて家族に会えると思っていた人に打ち首は残酷な仕打ちです。共感できない私が悪いのでしょうか？おかしいと思いませんか。

篠田昭如氏には何の罪もなく、冤罪である。もし、法律にのっとって有罪になっていたら、斬首刑にされていたかもしれない。裁判長は、彼が飲酒していたことを考慮すべきだった。もし飲酒していたなら、裁判官は斬首刑を宣告すべきだった。

斬首刑はあまりに理不尽だと思う。

裁判官の対応は言語道断だ。

おっしゃるとおり、篠田明之は飲酒の罪を犯しています。裁判官は斬首刑を宣告してもおかしくない立場だったのです。

篠田は、実は本当にいい役者なんです。

その演技は実に良く、実に良く、演技が出来ます。しかしながら、

これはあくまで『好み』の問題に過ぎないのです。演技に『良い』
と言う意見があるなら、何で篠田が認められましょうか。それが演
技ではないなら、『良い』と言った方が良いでしょう。

篠田明之さんは、演技が上手いとか嘘をつく必要はない。むしろ、「演技が下手。もっと上手にならないと」などと言う人が大半を占めているのは事実なんです。

『誰が演技でこんなに苦労するのか』という話も出てきています。『演技が上手い』と言う人が、『下手だ』と言う人に道を譲る意見もあります。

その点、篠田明之さんは、誰もが認める良き役者です。

『誰が演技でこんなに苦労するのか』という点で『良き俳優』なのです。『良い役者』のイメージだけでは、その演技が『悪い』と判断されるものなのです。それは、『俳優』の限界です。『俳優』の限界を越えないこと。それが演技の『良き』なのです。

■打ち首を悔やむ反面、裁判官を打ち首すべきだったという擁護も。

「裁判長はやりすぎだろ」

「打ち首は酷すぎる」

「裁判長の独断専行だったんだろうなあ……」

「裁判官の判断ミスだと思うけどね。」

だって、この判決が出た時点で、被告人はもう、死刑確定なんだから。

いくら、酔っていたとはいえ、あれだけはっきりした物的証拠があった以上、どうしようもないよ。

まあ、裁判制度そのものが問題だけどさ。

へびいちごグルメ会

それでも、酒気帯び運転をした被告人を、 懲役2年6ヶ月というのは厳しすぎると思うわ」

執行猶予が妥当だ、と日本斬首刑廃止協会の活動家しをんさんはいきどおる。

「酒気帯び運転をするような人間は、 死んで当然だと私は思うんだけどねえ……。」

そもそも、飲酒運転で捕まるような奴は、 普段から酒を飲んでい
る可能性が高いわけでしょ？ そんな奴は死ねばいいんだよ。

それで、社会のためになるんだから」

また、しをんさんの過激な発言に賛同の声も上がっているようだ。

「同意。飲酒運転をするような奴は死んだ方がいい」

「同意！飲酒運転で事故を起こす人は 社会的制裁を受けて然るべき！」

「同意！飲酒運転をする人間の命は軽い」

「同意！飲酒運転で事故を起こした人間が死ぬことは 当たり前のことであって、それを責めるのは筋違いだと思います」

「そういえば、うちの弟が飲酒運転で捕まったことあったなあ。」

確か、5年前くらいの話かな？あの時は、家族全員で弟を叱ったっけ……（笑）」

このように篠田さんを擁護する声も多い一方で、篠田昭如さんに対する厳しいコメントも出ている。

例えば、SNS上では次のような書き込みがある。篠田昭如さんは本当にいい役者で、演技力もあるんですよ。だから、その演技力を生かす機会がないんです。もっと上手になれば、演技力が評価されるんですけど……。

篠田明之さんの演技力は素晴らしいものです。演技の幅も広く、様々な役柄を演じることができます。しかし、篠田明之さんには致命的な欠点がありました。それが、演技力とは関係のないもの……つまり、人間性です。彼はあまりにも優しすぎたんです」

■「爆笑！打ち首マンザイ」の関係者の本音。

匿名を条件に下請け制作会社のスタッフが暴露した。この企業は打ち首マンザイのリハーサル現場に小道具を届けている。

「日本刀を百本ほど持っていましたね。ええ、本番さながらあの激しいアクションでよく刀が折れるんです。篠田明之さん？まさか殺されるとは思ってもみなかっただろうね。打ち上げで豚の生首を焼いてましたから。判決？さあ？受信料払ってないしテレビはみないからねえ。あの人、テレビよりつまらなかったよ。個人的には死んで詫びるレベル」

■判決について 今回の判決については、賛否両論が出ている。

■ 裁判長の独断専行。

裁判長の独断専行だったとネットでは言われていますよね。でも、僕は違うと思っています。裁判長はきちんと仕事を全うしました。

■識者はこう見る。

満山評論家ピーヒョロ笛介「漫才はまだ文化的評価が下ってない。ただの言葉遊び」

無形文化財として認める土壌がない為ピン芸人には厳しいという。お笑いは文化である。

一方、篠田明之氏は芸人ではなく俳優である。

俳優には演技が重要であり、演技が出来ないのなら俳優とは言えない。

篠田明之氏の件に関しては、お笑い芸人と俳優の違いを明確に認識すべき。お笑いコンビのボケとツツコミは互いに認め合う関係である。

それに対し、篠田明之氏と 裁判官の関係性は 一方的に相手を否定しあうもので、そこには信頼関係など存在しない。

もし、篠田明之氏が 俳優以外の職業に就いていた場合、彼の人生は終わっていた。

仮に彼が芸能人であったとしても、判決の後に酒気帯び運転をして逮捕された時点で 俳優としての未来は閉ざされていたであろう。

大シャカリキ空位時代を考える

その点を踏まえると、篠田明之氏にとっては、死刑判決が下されてもおかしくはなかった。

だが、判決は無罪となった。

これは、裁判官の温情ある判断と言えよう。

ただし、

「判決は有罪ではなかっただけで、篠田被告は有罪判決に等しい扱いを受けたのではないか？」

という疑問は残る。

篠田昭之さんが酒気帯び運転で逮捕されなければ、おそらく、こんなことにはならなかったでしょう。

しかし、篠田昭之さんが酒気帯び運転をしなければ、裁判の判決も変わっていたことは間違いありません。

どちらにしても、篠田昭之さんの人生は終わったはずです。

そして、篠田昭之さんは、そのことについて、何の弁明もしていません。

■ 判決後、篠田昭之さんにインタビューを試みた。

篠田さんへ まずは、お疲れ様でした。

判決が覆らなかったことをどう思われますか？

「はい。正直、ほっとしているところもあります。やっぱり、酒気帯び運転はダメですね。反省しています。これからは、酒気帯び運転をしないように気をつけます」

■ 次に、飲酒運転をした理由について

ミカド放蕩流し代とは何だったのか

「僕は、もともと酒癖が悪くて、酔うとすぐに記憶がなくなるタイプなんです。それで、酒気帯び運転も何度かやっちゃいました。今回、酒を飲んでいなかったら、事故を起こすことはなかったかもしれません」

■ 飲酒運転はいけないことだと思いますか？

「もちろんです。飲酒運転は絶対にいけません。たとえば、どんな理由があっても飲酒運転は絶対だめです」

■ 飲酒運転をしたことを後悔しているのですか？

「はい。もう二度とこんなことはしたくありません。今後は、車に乗るときは、必ずアルコール検査を受けてから乗るようにします」

■ 飲酒運転をした場合、どのような罰則を受けるのか、ご存知でしょうか？「はい。免許取り消しになります」

■ 飲酒運転による事故は増え続けています。

「そうですね。交通事故は悲しいことです。みんな、交通ルールを守ってほしいです」

■ 飲酒運転は法律違反です。

「そうです。法律違反です。だから、飲酒運転はしちゃいけません」

■ 飲酒運転をしたことに関して、何か思うことはありますか？

これからの冷やっこ

「はい。本当に申し訳ないことをしてしまいました。飲酒運転はダメです。今後、こんなことがないように気をつけたいと思います」

■ 最後に、今後の活動について教えてください。「はい。僕は今後も活動を続けていくつもりです。皆さんの応援のおかげで、ここまでこれたんだと思います。ありがとうございます。これからも、僕をよろしくお願いします」

■ 篠田さんは、判決後の会見で、涙を流していました。「判決を聞いたとき、すごく悲しくなって、涙が出てしまいました」

「はい。判決を聞いて、悔しかったんです。あんなに一生懸命頑張ってきたのに、どうして判決が覆らないんだろうって……。裁判に負けたことよりも、自分の努力が認められなかったことの方が辛くて……。すみませんでした」

「はい。僕の気持ちは変わりません。ずっと、この活動を続けていきます」

「はい。僕にとって、今回の裁判はいい経験でした。もう2度と同じ過ちは繰り返さないようにしたいです。僕のような思いをする人が出ないためにも、もっと多くの人に真実を知ってもらいたいです」

■ 篠田昭之さんは、今回の判決を受け、どのように感じられたのか。

小さな声から届けよう！

「はい。最初はびっくりしました。でも、今は少し落ち着いています。今回の裁判は、裁判員制度で審理された裁判だったので、裁判員の方々の意見が反映された結果だと思います。裁判員制度が始まってから初めての裁判だったからこそ、裁判員のみなさんは慎重に考えてくださったのだと思います」

■ 裁判の結果をどう受け止めているのか。

「はい。今回の裁判を通して、飲酒運転がどれだけ危険な行為なのかを改めて実感することができました。裁判を通じて、自分が何をすべきなのかを考えるきっかけになったので、とても意義のある裁判でした」

「はい。飲酒運転は本当に危険です。飲酒運転は犯罪です。飲酒運転で事故を起こしたら、罪は重いです。飲酒運転で人を轢いてしまっても、相手が軽傷で済んだからといって安心できません。もし、相手に大怪我を負わせてしまったら、殺人未遂になるからです。飲酒運転はそれだけの重罪です」

「はい。飲酒運転は絶対ダメです。飲酒運転をする人はクズだと思います。飲酒運転は法律で禁止されています。飲酒運転はダメなんです。飲酒運転は許せません」

パヒョ木炭の子株をお分けします

「はい。飲酒運転をすると、事故を起こすだけじゃなく、周りにいる人たちにも迷惑をかけてしまうことになります。事故を起こしたときに、ブレーキを踏んだりハンドルを切ったりする人もいれば、何もしない人もいるからです。もし、飲酒運転をしている車を見かけたら、通報したり、その場から離れた方がいいと思います」

■ 篠田昭之さんは、今回の判決を受けて、

「飲酒運転は本当に怖い。飲酒運転はしてはいけない」という意識を強く持ったとのことだ。

「はい。今回の判決で、飲酒運転は本当に恐ろしいものだということを感じました。僕は今回の裁判を通して、飲酒運転をしてしまった人の気持ちが変わった気がします。だから、もう同じ失敗は繰り返したくありません」

■ 打ち首マンザイの無い未来をめざして。「僕はもう2度と、こんな悲劇をくりかえしたくないんです。だから、僕は全力をあげて打ち首マンザイを無くしていきたいと考えています」

■ 打ち首マンザイのない世界を目指して。

「僕は打ち首マンザイが無くなるまで活動をつづける覚悟です」

人力文学で世界は軽くなる

■打ち首マンザイについて。「僕は、打ち首マンザイが嫌いでした。あんなものは必要ないと思っていました。けど……、僕は間違っていたのかもしれない。打ち首マンザイは必要なものだったのかもしれない。あのパフォーマンズによって救われる人がいるのなら……」

■打ち首マンザイロスに苦しむファンたちへのアドバイス。

「打ち首マンザイが法規制されることになって抛り所を失ったファンが苦しんでいます。打ち首マンザイロスを乗り越えるために励ましのメッセージをひとことおねがいます」

■最後に一言。「僕は今回の判決でショックを受けています。でも、まだ終わりじゃない。僕はあきらめない。いつかきっと、この世界に笑いを取り戻してみせます。待っていてください」

■篠田昭之さんは、今回の裁判によって、大きな自信がついたようだ。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~27277

爆笑！打ち首マンザイの番組収録後に斬首刑執行のコペルニクス日
光帳
2022年08月05日 15時21分発行